



No.67

第10回 自分で作ろう!!化石レプリカ -中生代ジュラ紀「アンモナイト」-

2003年3月22日(土)に恒例の化石レプリカ作りの体験型イベントが開かれました。今回作成したレプリカの原標本は、イギリス・ヨークシャーの中生代ジュラ期前期の地層から採集されたアンモナイト(*Hildoceras sublevisoni* (Fucini))です(写真1)。アンモナイトは、レプリカ作り参加者の中でも人気が高い化石で、これまでもレプリカ作成の材料として何度か使われています。昨年行った第8回のイベントではクリップ状の異常巻アンモナイトのレプリカを作成しましたが、その際の参加者からのアンケートに「普通のアンモナイトを作りたい」というリクエストがありました。やはり一般の方々には正常巻アンモナイトの方が魅力的ようです。正常巻きのアンモナイトは、これまでも2回のイベントでレプ

リカの材料として使われましたが、両方とも日本の白亜紀の地層から採集されたものでした。しかし、今回は初めて外国産のアンモナイトを使用しました。また、今回のアンモナイトは、表面に波打つ“うね”(肋)や腹側(巻きの外側)にキール(竜骨)と呼ばれる突出がみられるという装飾の特色を持ち、これまでのアンモナイトに比べれば外見上やや派手さがあります。

イベント当日は、240名の参加者数となり、これは2001年11月のカプトガニを作成した時の参加者数212名を超え、過去最高の参加者数となりました。全参加者のうち、120名は小学生であり、177名の方が初めてレプリカ作りのイベントに参加ということでした。今回は親しみのある化石のアンモナイトが材料ということで、多くの方が興味を持って参加されたのではないのでしょうか。これまでのイベントのアンケートから、参加者の25~35%の方が化石レプリカ作りのリピーターであるということがわかりました。しかし、リピーターでもせいぜい2~3回ぐらいの方が多く、これまで提供してきましたレプリカのごく一部しか体験できていないようです。今後、これまで提供してきたもののうち、未体験のものもこれら多くの方々に体験していただけるような場を設けていくことも必要ではと考えています。そして、少しでも皆さんの期待に応えられるように、私たち自身のレプリカ作成プログラムのスキルアップをしていこうと思っています。

イベント当日は、地質標本研究グループ、地質標



写真1 イギリス・ヨークシャーの中生代ジュラ期前期の地層から採集されたアンモナイト(*Hildoceras sublevisoni* (Fucini); GSJ F16141)。化石の大きさは直径約6.5cm。



写真2 レプリカ作成の様子。“アンモナイトはこんな形の生き物です。タコやイカのような足が生えていたんですね”



写真3 まず、色水に石膏の粉を入れ、かき混ぜむらがないようにしっかり混ぜます。



写真4 次は、よく混ぜあわせた石膏をシリコンラバーで作ったアンモナイトの雌型に流し込みます。



写真5 最後に、アンモナイトの型と石膏の間には空気が入っているため、振動を与えて空気を追い出します。この作業をじっくりやることが、きれいなレプリカを作るコツなんです。



写真6 博物館実習生による色づけ見本の展示(実物：左、未着色模型：中央、着色見本：右)。家に帰ってから写真を見ながら水彩絵の具で上手に色をぬってみましょう。

本館および地質標本館展示企画委員会に加え、千葉大学と茨城大学からの博物館実習生(8名)の合計19名がレプリカ作りの指導にあたりました(写真2～5)。実習生全員が地球科学分野を専攻している学生たちでしたが、彼らもレプリカ作りは初めて

のようでした(写真6)。博物館実習を通して、地質標本館でのイベントや地球科学について学んでほしいと思います。

(中島 礼, 奥山康子, 利光誠一, 坂野靖行, 中澤努, 豊 遙秋, 兼子尚知, 熊田みさ子, 谷田部信郎, 新津節子, 春名 誠, 野田 篤)